



新聞叢

辛未

三月
四月



服部文庫
イ 17
2189
62



117 特
2189
62



一書高麗系より中朝初國後と改稱して色古女と云々
孫平不と下為り来し是より其の玉極高と或載り有
未三月

水口高知事加藤忠實

一書高麗系を採洋する事あり生後其言は高麗印生高麗
重國人のハトリ江と云々高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗
高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗
高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗高麗
未三月

高麗高麗

高麗高麗

一北山古史家の云々人云々人史官捕外書生云々高麗高麗

一服中元服伺

抄者嫡子壽保當集十七年卒之元服之儀
若言也 仰出之卒服之儀在去元服之時亦在
其向之儀也仰之儀 仰出之時則出系也其
抄者壽死去時身定式之元服也其向之儀
之向之時是相和之時也仰出之時是相和
成之時也 仰出之元服卒服之向不經台之儀在服
中卒服之時是相和之時也仰出之時是相和

辛未三月廿七日

龍野藩家奉殿

所引 服出之上可相候事

一檢死 家名所候伺

書後能役士族相平義信家當年中 岩内橋田村上
用之之時是夜中陣迄途時候候上候之刀劍等不
交致傷之倒死候事 書後能役士族相平義信家當
陣上候事候之當事候 所一新之候事候之元服等
候事候伺以上

辛未三月廿七日

宇野宮藩

一穿紙 家名所候伺 石乃之奉

一雇人陣行可候伺
抄者精之太政候之雇人辛未年中 岩内入替之儀洋行可候
歸途之上是所用之儀候事候伺以上

辛未三月廿七日

高松藩

所引 仰出之儀家名在御大更之儀候事

一律伺

新律中了解仕多々条之止了考完之上三三句係先
左之条之奉仰

一名例律関刑之条之唐之テ唐人ト為ルト係ト世絶ス
俸禄没収者名新絶侍係トテ又去其身唐人ト
成家者、係去相續人中身係去ト道家孫ト賜係
トテ去

中分紙 當主トシテ家名新絶先ヘシ隱居子弟ト其身唐人ト

下ニ止

一官定犯私罪之条中賊盜枉法賭博部民、婦女ヲ姦スル
尋虜恥ヲ破ルル甚シキ者皆杖ニ該ルテ唐人ト為
止ト有ルル然ニ受贓律官吏受財ノ条ニ九官吏枉法

不枉法受賄之因テ財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ之ヲ科スト有
シテ一カ以テハ完科 輕重以細具列シ又犯姦律姦
部氏妻女条ニ官吏所部内ノ妻女ヲ姦スル者ハ凡姦罪
ニ二等ヲ加ト有ク又姦共犯私罪条ト誦詔仕何シ裁
決シテ得ル可ク是ハ所カ受財犯姦ノ方条ニ官吏一体ノ
罪科ヲ揚ラシテ條ニ廉恥ヲ破風俗ヲ害スル甚シキノ事
犯私罪ノ条ニ寄リ裁決シテ得ル可ク官者ニ寄リ

例ニ通

一部民トシテ辱シ地官官ニ得ル其長官知事ニ限り古
以條ニ寄リ又姦事或ハ屬カスル苦肉民部民
ト相シ得ル可ク

姦事屬シテモ部民ト相シ得ル可ク事

一名例律同僚犯公罪ニ条長官次古判官主典ニ三等
ノ區別ナクハ後藩ニ知事姦事屬シテ三等ノ方古
ニ三等ノ區別ニ相シ得ル可ク又四等ノ分別係律以得
ル知事ハ長官ニ授テ姦事ハ次官ニ授テ姦事ト
判官ニ授テ屬主典ニ比例シテ係ハ姦事ト
ルニ區別ナクハ姦事ハ姦事ト相シ得ル可ク
得ル可ク

三等トシテハ姦事

姦事ニ寄リ

享和三月廿九日

刑部省

福山藩

一菊間庵古負出張歌

昔々ありふり取放且角と云く昔高僧の三河國境海頭
塚おに柱と好僧を慕動し申伸し益而を秋如く少集し
一頁の國出法なるを起民とて明子 孫政隆新し
日王とて知し一尺用五寸契改正の第一言評之孝及
神佛混淆し可と運ふき一之免命聖之由り管二僧
俗是病詠らるる詠言と此の五氏と誰惑し法教權二為子
人とおく鏡鏡割刃と携へ書高僧の二侵の極身と可敵
古より在り一法教おぬるは好僧おし記を并せ其解
法と記より去らぬと弄しそ書を毀壞し果業極精
ふゆ止あり古史の舊哉お氏と書方と柱を白成法おは
と鏡と權と古負と教付わぬぬ末國法と取し佛制と破り

多致一告人之罪を承け了解仕度に犯而律中ニ重刑
ヲ相允死流徒杖笞ト共ニ其ノ重キ者先ノ罪人刑を重ニ巨
細ニ其ノ賊盜律中ニモ婦人ノ并列を以テ其ノ目録
付テ其ノ重キ者

輕罪者ヲ保護セシテ繫獄セシムル官吏ノ罪
○斷獄律婦人犯罪條ノ重罪ノ死罪及不孝姦盜人命
放火ノ徒已上ヲ云

右ノ件、奉仰、已上

辛未三月

岩村藩

一 次男才小保但約

士族平次男才小保一、其ノ母立上カラ辛未三月、其ノ妻縁由、其
之得夫婦ノ關係中、命を以テ其ノ母、其ノ母、其ノ母、其ノ母

何れ

辛未三月

山藩

吉岡守孝

常人自カラ其妻ノ首ヲ自切スル事、其ノ首ヲ藩廳ニ
同所ニ其首ヲ、其ノ首ヲ、其ノ首ヲ、其ノ首ヲ

一 社寺互保約

一 無名ノ仲友互保力世位ノ士族ニ準テ、其ノ保力、其ノ保力
其ノ保力

但初末、其ノ社人、其ノ保力、其ノ保力

何れ

一 無名ノ社人、其ノ保力、其ノ保力

但于... 在準... 有所... 之...

先... 之...

存... 之...

辛未三月...

飯山藩

一丸... 之...

臣... 仰... 性... 取... 通... 今... 歎... 除... 見... 今... 所... 臣... 仰... 性... 取... 通... 今... 歎... 除... 見... 今... 所...

三月廿七日

從五位守丸瀧藩... 京極朝徹

別紙

一 國施ノ士民等藩名ニ拘泥シ封建ノ旧習ヲ脱セサルカ為ニ
藩政メテ縣ト稱シ官負米金穀會計等總テ縣ノ御規
則ニ準シテ行フ事

一 戶籍ヲ釐正シ人材教育セシカ為ニ藩下ニ聚居致シ士族
ノ給祿今一段節減シ文武ノ常職ヲ止メ戶籍ヲ管轄中
村ニ配賦致シ各所ニ郷校ヲ設ケ四民同學セシメ而後官
員ヲ士族卒平民中ヨリ拔擢仕度事

但戶籍ヲ釐正スルノ上テ居住スル勝手且給祿後方ニ係
ハ造ル所何可申事

一 武門ノ遺風ヲ脱セサル故ニ妨ケラレカ為ニ常備ノ兵隊ヲ解キ
銃砲悉ク兵部省ニ還納仕度事

但兵員所用ノ命ス四民中ヨリ軀幹強壯者相擢スル
事

右事藩施政ノ上ニ於テ官見之儘奉窺上下宜也

所少込被 仰付度奉仰願也以上

辛未三月廿七日

後志守丸龜藩知事京極朗徹

一 德島藩知事建白

王政復古之卓見美新ヲ以攝祿門流ノ廢ニ隨テ封土
板籍ヲ收メ尺土一民 五民ニテラサレテ郡縣ノ各備
ルト雖尚數万名ノ家祿ヲ有スル華族アレハ切實ニテ知
藩事ニ任スル有或ハ數百石ノ祿ヲ食ム士族モ有テ各
其祿ヲ世襲スル此弊習ヲ一洗セサル郡縣ノ實奉ラス
會計ノ本立ス國ノ體名如此ニテ可ナラシヤ而シテ行フニ
忍ヒサルモノハ時勢ト人情トテ顧慮スルヲ以テ因循今日ニ
至レル也是ヲ不行シテ可ナラハ三百年來承習ノ人情封建

世祿ニ安ニスルヲ喜フ事必然ナレハ旧貫ニ仍ニ不如也其之ヲ
行ハスハアル可ラサレ所以ノモノハ獨立自主ノ威柄ヲ備ハ
海外萬邦ト對峙昂立スルヲ要スレハナリ今ヤ歐洲各
國郡縣ノ制ヲ以テ國ヲ建テ其兵ヲ養フヤ徵募ノ法ヲ以
テ世祿ヲ食ミ此營ニ在ル者十カ一ニシテ余ハ悉ク鄉里ニ
遣歸シ自ラ生活ヲ營ミシメ事有トキハ徵發ニ應セシム若
家危険ノ際ニ至ル時其已ニ服役ヲ免ル者モ亦起テ兵
トナルヲ以テ全國殆ト兵ナラサルナキニ至リ而シテ平時ハ
其歲收ノカヲ盡シテ船艦銃砲精巧ヲ極メ海陸軍備ヲ
嚴ニシ以テ其國ヲ維持ス如是ニシテ各國ノ國債多キモノハ歲
收ノ十倍ナルモアリ少キモノモ三四倍ニ下ラス汲ミトシテ貿易
ヲ務メ國益ヲ得ルヲ事トス今ヤ
皇國ニ債アルヲ不
回債ノ如キハ償却ノ方已ニ立テリト聞
朝廷及ヒ府藩縣

ノ紙幣モ漸ク以テ引換ヘケレハ是亦國債ト稱スルニ不足然ル
ニ絶海孤島ノ國勢ニシテ海陸軍備整ハス會計ノ大司
所以ノモノハ是也ナシ世祿ノ為ニ許多ノ歲收ヲ費スルニ假令
世祿ノ者ヲシテ悉ク兵多ク堪ルモ要スルニ一人ノ兵ニシテ宣
許多ノ祿ヲ世襲スルノ理アラシヤ且全國世祿ノ者中ニ就テ兵
タルニ堪ル合格ノ者幾カヲ存スルヤ是ヲ以テ歐洲徵兵ノ
法ニ比スル其精粗強弱論ヲ不待也夫
皇國ノ歲入大凡
三分ノ二ハ藩祿ニ費ス而藩兵此責ヲ塞ク不能
朝廷僅ニタレ租稅ヲ以テ政務上一切ノ用度ニ費シ盡シ僅ニ
藩祿二十分ノ一ヲ徵シ海陸軍資ニ供シ以テ海外各國ト抗
衛セントス其難易強弱亦論ヲ不待也曩者民部大藏兵部
諸省ノ建議是ヲ陳述スル切實詳細至矣夫豈天是ヲ以テ
之ヲ見カ今ク世祿ナルモノハ全ク
皇國ノ國債也且歐洲

各國ノ如キハ尚債盡ノ期アルヘシ 皇國ノ國債果ノ何
シノ時ヲ期シテカ償ヒ盡スヘキヤ 廟堂既ニ是ノ故ヲ以
テ曩時ニ徵兵ノ令アリ且藩ヲ解テ縣ニ歸スルヲ願フ者
ハ賞シテ是ヲ許可シ均祿ヲ施シ歸農ヲ願フ亦賞シ
之ヲ許可シ漸ヲ以テ郡縣ニ歸セシメントス列藩此意ヲ體
認セサルニアラサレモ時勢人情ヲ顧慮シ姑息ノ情キ
不免夫當今宇内ノ形勢五洲各國通信互市シ地球
上互ニ比隣ノ如シ故ニ絶海萬里ノ外ニ在テ李倭ノ戰
スラ大ニ我 皇國ノ痛痒ニ管スル事滿清鴉烟ノ乱
ノ比ニアラス況ヤ何レモ同盟ノ國ニテ即所謂局外中
下 稱セサルヲ得サル者ヲヤ然ラハ則今日ノ急務大ニ兵備
ヲ嚴整シテ我 皇國ヲ維持シ海外萬國ト對峙
立スルヲ計ルヘシ實ニ一日モ不可怠ノ秋何リ漸ヲ以テス

ルノ違アラシヤ償却ノ法立スシハアルヘカラス現今内地ニ於
テ全國ヲ募ルノ策ヲ得スハ海外同盟ノ國ニ謀リ數
千萬トルノ銀ヲ借リ懇ニ切ニ天下ノ華士族卒ニ論
スニ且又時勢止ヘカラス所以ヲ以テシ其定職ヲ解
キ世祿ヲ廢シ其祿ノ三年乃至四年分ヲ一時ニ與
テ產資全下シ是ヲ以テ各自家產ヲ營ヒシメ其收入
セシ世祿ノ半ヲ以テ軍資ニ供セハ海陸兩軍速ニ
嚴整スルニ至ラシ爰ニ於テハ郡縣ノ實奉制會計
ノ本三千全國一致ノ體大成シ以テ海外萬國ニ抗
衡スルヲ得シ希クハ 廟堂斯而是ヲ行ヒ鬼神
ヲシテ避ケシメン事ヲ

辛未三月

一兵部者建言

古ノ能ク國家ヲ治ル者ハ時ヲ察シテ変ニ應シ必
先政治ノ大体ヲ立テ之カ目的ヲ定メ之ヲ以テ内ヲ
制シ之ヲ以テ外ニ交リ天下一切ノ事ヲシテ皆之ニ從
テ以テ出シム今ヤ四海國ニ巨艦大兵ノカヲ恃テ我
ニ交ル我モ亦巨艦大兵ノカヲ恃テ彼ニ敵スル物
無シハ其輕侮凌駕ヲ免レサルノモナラズ一旦事アル
ニ臨ニテ徒ニ倚依公法ニ從ハント欲スト雖豈得ヘケヤ
故ニ當今ノ時國家ヲ有テ上下安寧ナラシム事ヲ欲
セハ衆ク兵ヲ養テ自ラ守リ人ニ交ルニ如カス若シ
兵ヲ以テ目的トナシ其大体ヲ定ル時ハ其制度法令モ
亦シク変革ナカルヘカラス今ノ制度ヲ以テ國用ヲ計
リ今ノ定額ヲ以テ兵ヲ養ント欲セバ數多ノ兵卒ヲ

財難材

己ニ養フ能ハス何トナレハ財ノ以テ衆兵ヲ養ヒ其費械
諸藩ヲ繕ルニ足ラサルナリ夫財ナケレハ兵ヲ養フ
能ハス兵無シハ國ヲ有ツ能ハス頃日徴ス処三藩兵
隊ト雖モ其道路之費給糧ノ資ト蓋亦若干万ニ
下ラス然レモ特ニ常備歩兵ノ一部ノモ我朝四千万ノ
人口ヲ以テ之ヲ度ルニ海陸全兵ヲ備具スルニ至テハ其
費ス所又當サニ幾巨萬ナルヘキヤ竊ニ惟フ今日ヨリ
後天下ノ歲入三十分ノ一ヲ取テ兵部ノ定額トナシ強兵
ノ目的ヲ定メ暫時ノ間陸軍ハ併ニ倣ヒ海軍ハ英
ヲ師トシ 皇國不拔ノ制ヲ立テ訓練教育成
財ノ後ニ至テ庶幾ハ獨立抗敵始テ人ニ交ルヘシ然
ラサレバ印度教法モ其國ヲ保ツ能ハス支那ノ大國
モ彼カ驅役ヲ受ルニ至ラン然カレテ天下百事ノ供

億其經費ノ贏縮ニ至リテハ素ヨリ既ニ反復考究決
シテ遺漏スル所ナシ今其内一二ヲ舉テ之ヲ論セハ冗
官ヲ汰スルナリ戰功賞典ヲ收斂ナリ恩典ノ祿ヲ絶
ツナリ公卿知藩事ノ家祿ヲ減スルナリ今 朝廷ノ
上玉石相雜リ材者不材者ト肩ヲ比ヘテ恥ル所ナ
ク客歲以來登庸命ヲ蒙ル者日毎ニ一二人其辭
退スル者歲ニ僅ニ數人而已如此ニシテ一二年ヲ經
時ハ官人 朝廷ニ充塞シ其食ム所ノ職祿終ニ
糧兵ノ資ニ倍獲スルニ至ラン是ヲ向ハ則曰彼不材
ト雖モ官ニアルノニ閱數月未タ一事ヲ誤ラス復之ヲ
黜ルニ忍ヒスト實ニ大息ノ至リニ非スヤ宜ク速ニ賢
愚能否ヲ撰擇シ不肖ヲ沙汰シ賢良ヲ登擢シ然
ル後大権一ニ出テ紛紜繁擾ノ弊ナク國計ノ大本立

ノミ己
字ヲ護ルカ

ヘキナリ戰賞恩典ノ事ニ至テハ 聖意ノ已ヲ得サ
ルヨリ出ルト雖モ臣子タル者今日之ヲ得テ以テ榮トナ
ス事ニ公私ノ別アリ時ニ緩急ノ勢アレハナリ而シテ
朝廷モ亦空匱ノ財ヲ竭シテ不急ノ舉ヲ先セシヤ異
日國富兵強ク府庫充塞ノ時ヲ待テ而シテ後其功
ニ酬ヒ其勞ニ酬ルモ未タ晚トセサルナリ公卿知藩事
ノ家祿ヲ減スル者ハ古ノ制功アリテ祿ヲ賜ル者ハ一
家數口ノ需ヲ除クノ外餘リアレハ多少ノ倍交ヲ
養フ事アルノ日ニ當リ躬自ラ其育フ所ノ兵卒若
干ヲ率ヒテ其急ニ趨ク其衆ヲシテ勇強ナルヲ以
テ榮トシ譽レト為ス故ニ一門ヲシテ高祿ヲ食シム
ルト雖モ國家賦兵ノ制度ニ於テ決シテ妨ル所ナシ今
ヤ華族ノ家或ハ千石或ハ万石其甚モキニ至テハ一人

殆ト十万石ヲ食ム者アリト雖嘗テ一人ノ兵ヲ出サス
盡ク以テ私有ノ物トナシ奢侈玩好ノ費ニ充テ尚屢
事ヲ知ラス政治ノ大体何ニ由テカ建チ強兵ノ目的何ニ
由テカ定マラン抑華族士庶人ト共ニ是 皇國ノ臣
子獨リ空ニク高祿ヲ食ミ徒ラニ尊大ヲ養フヘカラス
而シテ 朝廷モ亦能事変ヲ推察セハ正ニ是義
ヲ以テ恩ヲ拵背ヲ以テ腹ニ易フルハ真ニ已ラ得ル
ノ時宜シク厚薄至當ニ制ヲ定メ其賦兵ノ多少ニ從
ヒ其祿ヲ減削シ彼ニ育フヘキ處ノ者ヲ以テ官ニ育ハ
法令一ニ出テ其費用半ヲ減セン華族ノ報國盡忠之
ニ至ル者ナシ大凡此數ノ者今日ニ在テ寔速ニ施行ス
ヘキノ急務ニシテ其餘細大ノ事件尚歲入三分ノ一ヲ
以テ專ラ兵事ニ充テ而シテ國家困蹙ノ懼レナク民

庶怨嗟ノ心ナク其確乎不拔ノ籌策ニ至テハ強兵目的ノ
御政体御採用ノ日ニ當リ詳悉可申上候恐ニ

辛未三月

兵部省

辨官侍中

一日田一系

四條女將三月十日白河の陣藩、この年未だ事
 多し、とて集藩情、助同上、石綿方、事未だ指揮
 多し、又大栗原を而、後、關係、とて其、監友、指揮
 同、お、差、お、以、書、お、進、お、し、米、藩、お、水、望、お、と、し、
 少、希、お、し、何、系、未、だ、お、出、お、お、指揮、お、成、お、得、お、お、
 石、田、お、お、係、一、大、隊、お、率、お、使、お、お、押、入、お、お、
 中、入、此、時、藩、内、お、お、及、限、難、お、お、お、お、
 相、後、お、お、お、お、お、お、お、お、
 日、部、お、お、お、お、お、お、お、
 厚、お、お、お、お、
 左、お、お、お、お、
 向、お、お、お、お、
 鏡、お、お、お、
 門、お、お、
 相、お、
 成、
 能、

布山口より天降の相向居少将を高く山下降雨ラ居ラシ
 不審の急助同防伏の急捕防不待方子ヲ指揮中し由
 一大楽原より又舟に母將於米倉橋に防伏あり急捕京殿
 方二舟子逃去場之至五舟米倉橋より子三舟十六舟に
 以右足舟並に防伏之人を救害古事申、埋て舟大高原及
 又キ功舟死骸ヲ堰上テ川に底に沈て舟中是又一度に
 おサレ又古船害て一舟の其頭末及舟所死骸ヲ舟指揮
 便改て舟を土に埋テ川に敷りテ流たしに治大楽見舟十ヤ帆ヲ
 又候自新し新仍上とある由
 一 大楽原より舟一舟隊出共二舟女将の再催促りれり
 急事あり各隊各系隊出におる船屋又之船三日末と不
 出ト云
 一 大楽原関係より出番高と云ふ事も其他の番高と云ふ事

人々を執りて日田にお出せし事申候事、且同州に
 一 熊鷹藩士の内古関係より日田にお出せし事申候事、
 其其取の何れも此等舟に丸問の豊後丸に於て限り候事
 其番高に候事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
 日田縣、下集と番高、たき道
 福岡 豊津 中津 秋月 久留米
 柳川 三池 園 杵築 白杵
 市内 杵 早出 佐伯
 古知事 古隠し向て古事申候事
 一 於て長山は知事より候事

少川 袖八

其子述
原正行述
既兼片言

又令就設備之...
原正行述
其子述
既兼片言

而此水...
原正行述
其子述
既兼片言

辛未三月廿二日

1844年11月12日

Handwritten notes in cursive script, likely a list or index.

Main body of handwritten notes in cursive script, continuing the list or index.

一 於... 兩堂... 法... 者

三... 者

一 相... 者

一 平... 者

一 區... 者

中... 者

一 於... 條... 者

Main body of handwritten notes in cursive script on the left page.

第二條

至素士民下上協方之條其其事一應是矣同有之快
至得結系 朝意之至子之知と之と 一方中下條
之之書

第三條

浮片及浮白之條之上中市告之取時之末と之是也
漏古尔一市至家書之去勿偏也市一之階位互に相
引一一家物之條一但連中し制と之是也緝補之條其役
而も不乃下 其他役吏年 或は老謀之ん搜索精と
之之書

辛未三月十一日

年月日下格の向表玉出張の法爲る余條之と向中下之書
之之書使、之の之也

完書宛

今取結向之条之と通取務浮片之條不浮中之條
三治一之と之行板之其率藩之取同報不出之書
不乃爲取片勿偏之事之然亦各率藩各所地形不向治
海平地山險河原之取片、之何採一相之取補係
之之條之書之移之向之と之と之條之何之其率藩之と
之條之條之書之条之と之同是之條之と之条之條之と之
條之条之と之何其技兼通之と之之條之之後之と之方面
接境之條之書之通之と之と之と之と之と之今取合
之条之條之連結互之條之条之條之條之條之條之
之條之書之と之の條之條之条之と之と之と之
之条之條之条之条之條之条之条之条之条之条之
之条之書之と之之條之也

辛未三月十日

三池 落
佐伯 落
森 落
方内 落
日中 落
梓葉 落
秋自 落
四坪 落
因 落
中津 落
柳河 落
堂津 落
久为 落

福岡藩

巡察使法中

別段申付由為藩邸一途
以聲息了通之為情為一合春秋為友位當於云集
今以庶事名瑞意為一了之字不日也申付之

春 二月十日 期
秋 八月十日 期

辛未三月十日

三池 落
秋月 落
中津 落
柳河 落
堂津 落
久为 落

此卷中何事

何事

去事一係之有用後宜係之公之
用雜話方流之以下之其事
之人屬之人也

一 歸者為白

今午月日布告之件事決以務之沿革亦其釋之一
藩往之農者為之復歸之十決之其之歸者為之
中印之其之復歸之相事之其之歸者為之

何事

一 年者全其居其月之定福之度之人者其相之權之產
業之權者其之為二十中月之定限之其之其事

何事

一 農者為之歸之二十中月之其更之權之權用之其之者
職深定則之通之月之其之定福之人其相之其之
其之由歸者為之權之其之其之其之其之其之其之

庚午十二月廿六日

新山書

書居士後年辭去為、御之至言仰也、
今何事、
一、
就、
於、

辛未三月十七日

新山書

書居士後年、
後、

為、
又、
了、
其、

辛未三月廿七日

新山書

同之通

一風園

一秋田藩はさきさきとて、
石川通山、
山崎闇斎、
山崎闇斎、
山崎闇斎

格女局

青柳為次

清水結子

川井新次

泉 源三郎

山崎源三郎

中村如之助

山崎源三郎

山崎源三郎

山崎源三郎

山崎源三郎

大正二年五月廿一日
山崎源三郎
山崎源三郎

山崎源三郎

山崎源三郎

山崎源三郎

鎮東三市
 吉田屋下
 小字五
 田中
 右多田
 右多田

一屋
 一物
 一屋

一幸未三月

英國留學

東伏見二宮嘉彰親王
 三條
 中御門 寬丸
 押小路 三丸
 萬里小路 從四位
 石野 正五位
 西園寺 從三位
 南岩倉 從五位
 清水 從五位

水戸末男
 米國
 李國

元日光輪王子官

伏見 満宮

米國

東久世 正五位

勤字中位階返上

岩倉 從四位

同 從五位

華頂 高博 經親 王

南部 英丸

從五位弟

洋行願

鍋島 佐賀 藩 知事

戸田 大垣 藩 知事

同 藩 参事 二人

一 年 未 詳

米國 1867

一 廿 二 年 三 月 廿 四 日

檢 査 官 倉 橋 清 三 郎 國 司 渡 邊 半 助 氏 高 橋 浩 之 助 氏 事 務 官 十 二 月 二 日

之 不 及 出 産 者 一 名 名 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏

國 司 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏 倉 橋 半 助 氏 倉 橋 清 三 郎 氏 倉 橋 浩 之 助 氏

年凡各港あり之輸出輸入と京在の地とを以て言及して
其の多額ありて見るに手中と出ありて書印決りて是は國
人多くは換親之法ありて利理を以て言及して後世
國ゆゑに其の利益を生ずる物とありて書及して其地
の暗ありて言及して之れと波と様とありて言及して
此に言及して地と利とありて言及して言及して
此に利ありて言及しては利とありて言及して言及して
諸之海老の言及して言及して言及して言及して
其の振幅又偏教ありて言及して言及して言及して
室園の言及して言及して言及して言及して言及して
中實の言及して言及して言及して言及して言及して
貴族の言及して言及して言及して言及して言及して

少補柱の言及して言及して言及して言及して言及して
柱正柱の言及して言及して言及して言及して言及して
其の言及して言及して言及して言及して言及して
言及して言及して言及して言及して言及して言及して
地出言及して言及して言及して言及して言及して
西暦年言及して言及して言及して言及して言及して

昭和の未年

西暦年

甲午年

昭和三十二年

神奈川

前書

新設法

White Encke
Kovfjanta Tjogndir
Fylgubirki
Nasbjörns

1875

一 辛未三月下浣所聞

一 浦上村宗門徒多不國公使余侍所高不亦如也
一 奇能之志多由中土之管然三日有之志多素
一 宗門徒之統走人神戶名之介國公使入也自之或
一 爲之安之抄之也入之老之書稿送之由云之志多
一 爲之抄之也必宗門之開之玉之就
一 古之爲之抄之也其之捕之得之在
一 秋田之海路之控五方信用區爲制取也
一 能之志多由中土之管然三日有之志多素

一 本月より佛事所に使者の来りて、
在事二百有、
不之成、
東後、
英國、
各國、

一 三月、

都、
一、
衆、
五、

一 救、
一、

一 國、
一、

一 救、
一、
一、
一、
一、

一 救、
一、

新くかゆきりし何と規則をきこし多り日必牛園
を合しし正高の屠牛士段とてしぬ

牛の物を古くして民や也 歌々多き至常耕化の使
役一期作留テ古くぬ又代り種と記ける所
之望に致し甜肉物を改作せん所候人々記る由也

一病院あり其邸中池あり是を船と号し病人候者
之方の釣魚しぬ釣るるも休後を園中四季に充
て裁て撤出運給し地人病院中不潔を免し
すは法度とてし事也

一唐人下多し取録 并後務持由何

藩主取録年々内亂科多し唐人下し者も家名相違不
苦之而も事不有之 藩主迄至し其取録内別子取録
取録し申す事不有後事也

伊豆 不相識事

一渡船も去り家録も多し 船も不依と申し夫も取録
方々に相違し持賜も多し 事不有也

伊豆 不相識事

右の事も取録も多し 事不有也

三事取録

高島藩

一活水規則何

一活水取録何 作出古事也 亦川七規則何 白紙也

了土布司上全隊之ははりやうを六十年為事の時分國役
多後下五得大川斗三條をすくす本
一土布石灰坪敷り人足五町あるに定則有り土布石
灰をすくす本

辛未四月十日

伯太藩

所見紙
治水規則し儀大布告し道に待假を山川に土布石
費すくす本坊亦大勿偏自費後并に新規持所坊亦
他藩亦多事多儀土布司上後石布一土布一所或
嶽五そ人足分能合三人石布司上石布七そ人足
と積了町敷し多そ土地嶽積石坊減元そ町
目下儀多後すくす本大坂出張民部省の御出

重出

律

一庶人下し者し事孫何

一藩内士族年中内死科をて庶人下し者事右並に不
若命しそそやたるに藩内通官も事深あり割り子
孫亦に相續せしむるに事深あり

所見紙 不相成り事

一庶民者も事深あり事往後と為り然上と事深
業多しと相成り事深あり事深あり

何れ也

右事多事深あり事深あり事深あり

辛未四月十日

高崎藩

一律何

士族政仕、父或大嫡子罪と犯すと有る亦士族之法に依り
国刑ヲ用と區變一之閉門ノ刑ニ定むるに對し其ノ
有テ謹慎者とのり門虎ヲ段一姫母ノ出入ヲ禁むる
不在條、その外ある以上

榮子同藩

所自紙
何道

高南居士

少所楠を以

古く去る亦五十年五月病者有る、此類出同年二月前
略し其後平之治を以て其後病は極きお子は信
釋信致す、是より後、其の病は、其の病は、其の病は、

高南居士

高南居士

古く去る天保十三年三月脱走して其の宗親、其の宗親、其の宗親、
其の宗親、其の宗親、其の宗親、其の宗親、其の宗親、
其の宗親、其の宗親、其の宗親、其の宗親、其の宗親、

高南居士

高南居士

卒二石仕十役料
卒二石仕十役料
卒二石仕十役料
卒二石仕十役料
卒二石仕十役料

律一律白

士族
卒

右云云
律賭博者
卒又右律
一雜犯律

凡財物之賭
各例律
刑

凡士族
護此者
右同刑

若賊盜及賭博
右同刑
官律

賊盜賭博等
官律

帯刀取方度人下又
徒以上仍本刑ヲ加フ

一 洋人の手紙

海不視燕人任道一と云ふは、私行所仕、私事長治元右
視多し、此の如き他、為事先、徒成業、期、去、と、道、也、若
國、任、任、之、親、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
一、子、任、之、之、親、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
才、並、之、有、之、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
任、任、之、親、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
之、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
之、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、

と云ふは、私行所仕、私事長治元右
視多し、此の如き他、為事先、徒成業、期、去、と、道、也、若
國、任、任、之、親、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
一、子、任、之、之、親、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
才、並、之、有、之、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
任、任、之、親、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
之、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、
之、志、歴、先、任、任、就、上、以、事、与、り、要、所、尚、

辛未四月廿

和歌山藩

可成 取道 任事

一 郎内院書翰

當房書翰、辛未四月廿、郎中、内院書翰、
右、以、採、用、之、事、上、下、物、事、在、系、之、在、氏、と、為、り、之、任、任、務、
之、任、任、務、之、任、任、務、之、任、任、務、
あ、と、之、事、上、下、物、事、在、系、之、在、氏、と、為、り、之、任、任、務、

未三月廿八日入年

未六月廿八日入年

未三月廿八日入年

未三月廿八日入年

未七月廿八日入年

未三月廿八日入年

未三月廿八日入年

未十月廿八日入年

未十月廿八日入年

未十月廿八日入年

未七月廿八日入年

未九月廿八日入年

未三月廿八日入年

未十月廿八日入年

静園居在在居下居

中子 在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

在在居下居

去月日ハ入牢

去月日ハ入牢

去月日ハ入牢

合連去二十三人

江州大上野村年番

井川平次郎

麻布龍去所年番

山田寅吉

浅草町中條花地信

合連去三人

福田為三郎

合連去三人

合連去三人

合連去三人

合連去三人

合連去三人

合連去三人

一律同

新律中何々各條

一 賊制律之内

不覚被盜

右凡倉庫内ノ物ヲ盜ミシテ主守覺察ニ失スル者ハ答四
十ト申シテ至極ニ作事ハ屋泊者ノ名ハ屋外ノ歸リナキ
處ニ積置シ行末ホリ盜ミシタルニ素ヨリ其泊者ノ者無
念ナリト雖モ門戸ノナキ處ノ品ナレハ倉庫内ノ物ヲ盜ミ
シタル格ニ引付兼可ク其處置多クノ事

申付紙 倉庫内ノ物ヲ盜ミシ覺察ニ失スル者ニ一尋ヲ減ス

一人命律之内

庸醫殺傷人

右凡庸醫鍼藥ヲ用ヒ誤テ本方ニ依ラズ因テ死ニ致ス者
ハ法ニ依リ收贖シテ其家ニ給付シ醫ヲ行フヲ許サスト
日中々々トハ其醫ヲ負ヒテ贖フヘキ力ナク又身寄ノ
者助クヘキ者ナキ時如何ト事

過失殺收贖ス可キ者無力ニシテ收贖スル事能ハサ
ルハ五等ヲ減シテ實決ス

一寶貨偽造ノ部無キ者又右ノ准流法ヲ照準シ刑
ヲ定ムルトキハ新律ノ内流刑

- 一 一等 一年
- 二 二等 一年半
- 三 三等 二年

右ハ流刑ハ一年ニ始リ二年ニ止ルト有キ者皆其寶貨

偽造ノ者ニ限リ新律ノ内名例中ノ流刑引當其罪
一 一等ニテシレハ若シ殺仰出ル准流刑ト當テ五年トシ
二 二等ナレハ七年ニホナレハ十年ト當テ可然トカハ何ト

例ノ通

一絞斬ノ死刑又笞杖等ノ刑有キ取扱人ハ凡テ穢多或ハ非
人ナドハ只ノ平民外ノ者ハ為取扱トテ不苦事ト如何

使評以下ノ者ニ為取扱可然ト事 死體ボテ取扱ハセ候ハ
穢多非人ニテ不苦事

一自裁其者ハ自ラ屠腹スルキ旨ナレバ屠腹後監察掛
ニテモ見届リテカ又式ニ事ニテ介錯人等官ヨリ差出シ役
筋ノ者ハ見届リテカ但屠腹命セラレシ者自介錯人
ヲ頼ル意次ナレバ如何

介錯人等官より差出し役所者見而係心得

一凡テ罪人ノ首後ヲ分ラニ從ノ中ニ輕重有ク其共從
ニテ別ニ其ノ事カ如何

正條等ニ難決ハ可何出事

一偽造官印偽造私印

右偽造トアレハ別ニ偽リテ造リタルハ外ノ印ヲ以テ一
時官印或私印ニ偽リ人ヲ欺キタルモ新ニ印ヲ贋造ス
ルト同ヤラレトカ如何

伺ニ通 財ヲ得ル者ハ各盜賊ヲ以テ重キニ從テ論ス

一村長等村ニ役アリタル者違令ニ違キ罪アル時答杖
謹慎ニカヘテ宜キカ答杖ヲ行テ不苦カ答杖ノ取扱
人ハ何人ニテ宜キカ答杖ニ及ビテ輕キ罪ニ滿ノ適宜ニ

謹慎申分ニテ可然カ如何

平常取扱方吏ニ准スヘキ者ハ吏ニ准テ罪ヲ科スヘキ
然ル者例ノ庶人犯罪不的決ニ依リ唐斬スヘシ答
杖ノ取扱人ハ使部ナリ

別ニ違式ノ例アリ

重キハ答二十輕キハ答十答ニ及ビテ微罪ハ可責

一盜賊忍入財ヲ盜ミシタルヲ盜ミシ主カリシテ官ハ訴出サル者
後ニ發覺スルハ其隱シタル者ノ罪如何

但名例律中ニ内罪ヲ斬スルニ正答ナキ者ハ他律ヲ援引
比附シテ加フヘキハ加ヘ減スヘキハ減ストアリ又人命律内
他人ノ為ニ人命ヲ私和スル者ハ杖六十トアリ
右ニ答ヲ照準シテ考フシハ答二十ニテ可然カ

急度可責

古今般即頒布新律中的決仕彙候条件奉付候
至急御差圖可致成以上

辛未四月十九日

鶴田藩

刑部省
申

一元長岡藩士家祿定

柏崎縣江

其縣貫屬元長岡藩士家祿年家祿列紙之由以定相
成台以分相也之事

但由是為入籍也其元長岡藩士家祿之事

辛未四月

太政官

列紙

元長岡藩士家祿年家祿表

現石拾貳石六斗	二人
九石九斗	三人
七石五斗	三人
五石九斗	四石五拾貳人
五石七斗	三人
五石五斗	五拾三人
五石三斗	五人
五石壹斗	拾壹人
四石九斗	拾人
四石七斗	五拾五人
四石五斗	四拾貳人
四石四斗	七人

日 四石三斗
日 四石五斗
日 四石三斗
日 四石
日 三石九斗
日 三石八斗
日 三石七斗
日 三石五斗
日 三石三斗
日 三石

斗人
四石五人
五石
斗人
拾人
九斗九人
斗石五人
斗石五人
斗人

被下言

合米七千九拾石三斗

總人數千六百九拾四人

一宜分書式例

依宜分之法其任職而後多其宜則石斗同為一也
宜分門換在序係之也

伊風 何

一免職者其宜分亦多其下書如之也其亦不假宜
分書式之如奉書字切之在法外之免職狀者係之也

假宜分書式之如免職狀者係之也

一鷄退之者其書式之向之宜分在係是前古宜分亦多
下之免請任何之宜分書如之係係之也

何

一古卷年奉行仕部古卷位是也其宜分亦多

何

古件之申之宜分亦多其下之也

辛未年正月十九日

高田藩

一日行向

今般宜方書式以後亦身左件之印

一宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

一宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

又同

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

又同

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

又同

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

一宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

辛未年正月十九日

西端藩

一怪為所之者抑為中照向

於產孫他藩孫之士民之入極所又任抑為紀事上

於產孫他藩孫之士民之入極所又任抑為紀事上

於產孫他藩孫之士民之入極所又任抑為紀事上

於產孫他藩孫之士民之入極所又任抑為紀事上

辛未年正月十九日

佐倉藩

又同

宜方海方之印者任者撰奉仕任宜方海方之印

一埋濠為田向

王化供流傍之火異長今昔之次之能中

王化供流傍之火異長今昔之次之能中

王化供流傍之火異長今昔之次之能中

王化供流傍之火異長今昔之次之能中

供已部不周用濠渠元一万千共万六千三坪之而自今
手之降已進二田而之仕名は水吉の印也

辛未四月

福正山藩 高知藩

所底 白之通 但用經之海之巨田五間下之也

一 唐刀一條より更之句

先達三藩制取事は田修之旨九之矣之申諸方人唐刀結
之は骨之唐指降之類 何れも身自下然之是也唐刀指
之之先之一般之修身之後古人及生能之禮服之用仕
之唐刀之類 唐刀指之修身之類 何れも身自下然之是也

辛未四月

高知藩

所底 白之通 但用經之海之巨田五間下之也

一 唐刀の

一 唐刀の修身可也之類 唐刀指之修身之類 何れも身自下然之是也
唐刀指之修身之類 唐刀指之修身之類 何れも身自下然之是也
唐刀指之修身之類 唐刀指之修身之類 何れも身自下然之是也

一町五ノ者之出給藩用年并ハ去其格別ニ石取之不足
取ノ者ハ其ノ不足ノ者ハ其ノ不足ノ者ハ其ノ不足ノ者ハ
右件ノ事ハ印ノ上

享和四年四月廿七日

龍聖藩

所付紙 古多事ハ不ハ少ノ局ノ事

一列藩藩歸田案白

臣利教謹言去明治二己巳年郡縣ノ所制度被為立
儀之字因ノ形勢ニ因リ天地ノ公道ニ基キ舊弊ヲ洗除シ
天下一途府藩縣同體禮樂合制ノ制富國強兵ノ利
萬目俱ニ奉リ 御親裁ノ所貴蹟也 所實徹在成候
ト承ル心至ニ堪サレ支々ト如何モ時運未クニ至ラサル故人心
猶均カラサル候今ハ時勢或チ其ノ右アリテ且其天賦キ
者又ハ不敷歟夫物自ラ定度アリ人自ラ分アリ謹テ推
ルニ今日ノ藩政ハ如キ兵民ノ二務アリ因テ其軍制ヲ詳
ニシ其兵伍ヲ練磨シテ以テ國家緩急ノ用ニ供ス固
當然ノ職務ナリ然レ臣負荷スル支々ノ藩ノ弊實稅
取ニ七千名ト云々兵力微弱ニメ假令精強ト云々其用
推シテ知ルハ已故其分ツルニ其者存不足ハ其詳ニシ

以テ其意ニ適セシテ其要ニ宜ク其程ヲ檢テ其易キニ就リテ
 終因テ藩稅ノ出入ヲ詳ニシ聊ク其歲入ヲシテ大體有入
 下ラ得ルニシテ其臣負荷ノ萬一ヲ補フニ玉ラシク然ルテハ
 當テ藩屬士卒ヲシテ歸田セシメ其世祿ヲ止メ更ニ與
 フルニ私産ヲ以テシ公稅ニ悉ク官庫ニ入リテ國家一般
 ノ公用ニ使ヒ士族ノ若我ラシテ亦世ニ傳ルニシメ且凍餒ノ
 患多ク各其產業ヲ出スルヲ得ルニ恐ルニ公私両全ノ
 道ヲ得テ一途回然ノ漸ヲ起サシ然レバ臣等千々藩稅爲
 少ニテ士卒ノ給祿亦微ナルカ故ニ其仕法甚古且息ニシテ
 在陳ニシテ深ク不傳其恒ノ清見別低ニ詳載申件ニ
 仰付可テ之ニ一節叙ルニ公ニ臣利教誠正誠實極旨再拜白
 辛未四月
 刈谷藩筆士井利教

一高武万三千石

此物成現米七千九拾石六斗五分余 支取地

内 七万九石

うち三拾八石六斗五分

残米五千七百四拾石五分余

代金四万石五分三厘三毫ト永五十五文

内金六千四百石

残金三万九千八百二拾三石ト永五十五文

此七ヶ年積

金或後三万六千七百六拾石五分

内金拾六万七千六拾石

金二万九千六百石五分

士卒年俸田子孫借入金
 年賦賦金前借金
 右借入金利息ノ申掛
 但元又後

此処ハ戸数三万三千餘戸

此處ノ年分

米五万三千八百八石

此處ノ方六千七百餘石

此處ノ年分

米七石一斗七升一合但日

此處ノ年分

一右仕法以七年間ノ租税相受リ得ル士族ノ世ノ産業相立テ借入金道債相返シル後藩税ノ多敷大石省金納リ下ル

但士族生産ノ業ニ於テハ義利ヲ結ビ利益ヲ切削リ穀ノ永久ノ破産ニ致シテカラシム

一仕法中ノ中ニ政府ノ官費ヲ甚セシ其ノ能ハ真

此處ノ年分

一右仕法ハ公務支費ハ支那地ノ公務一切應ニ及ビ一藩税ノ引當ニシテ田ノ子金借入ノ事藩廳限リ租返納シテ不爲依リ政府ノ於テ許可シ印奉法下ル

一藩債四万五千有リシ其右永年賦支分ハ又年ノ利息五折トシテ其ノ前藩廳法入費ニ付シ仕法ノ積相借金拮据ニ係リ大目以

辛未四月

報古中

刈谷藩

一兵隊官納札

臣尚服謹言惟此兵制之護國ノ要目今ノ急務ニシテ
少備臣力管下ノ如キ僅ニ數十ヲ編隊ニ稍熟業ニ及ヒ
テ到底方面ノ任ニ當リカタク其冗兵免ラレズル
藩内ノ常備悉ク解隊被 仰付軍資充テ往來ノ言
械共官納仕及奉ルル尤緩急徵募ノ令有リテ而
四民中ノ強幹者擢擢レ保テ或重テ其盡力可
信者此段片同所社成リ及リ保テ至願ニ誠信被
首

辛未年四月廿三日

加納藩官納札并尚服

片付紙 願之通事 仰付并奉

左外多進達ノ如容易世折突不在條ニ任取ノ如事 三言ニ奉 在極偏ノ友所ノ也 行 案亦也也

當藩官下房所出房神所村下能法大持海内和者月
十言暖東京表出帆以軍地之野下と解了今事何と云方和
知少能言却今午三人等身ノ不法ノ所事如何所候と通届
出下今全在系表と破牢人ノ孩子今ノ所ノ別冊を係
此段片同ノ以上

辛未年四月廿三日

長尾藩

別冊

此上以書有之候也

既而村及人等ノ之當村ノ能法大持海内和者月廿三日夜
七時許東京出帆仕深地前下と結了今事何と云方和
之能言接三人等身ノ不法ノ所事如何所候と通届

下航... 出... 三... 善... 大... 津... 何... 事... 必... 川... 亦... 亦... 亦...

明治四未四月十七日

長尾民政
行役所

右村

越川長次郎

一名古名藩を奉りて公

臣慶勝謹テ案スルニ今日ノ勢治途一轍ニ歸シ偏重ノ害
ナカラシムルヲ以大緊要事也トセリ今夫人四肢一處ノ康
健ナルヲ恃テ一身ノ安全ヲ保ツヘカラス一府ノ能治リ一藩
ノ能ク強ク一縣ノ能安キ未タ以テ全國ノ殷富ヲ論スヘ
カラス宜シク君民一様遵守ノ標的ヲ立テ危疑ノ念ヲ
絶テ堅根固蒂五指交彈ノカヲ一舉^奉ニ集ムヘシ因テ其
大綱ヲ五條ニ掲ク其細目ノ如キハ 朝廷采擇ノ自
ヲ待テ逐條ニ之ヲ奏セシ

第一條

各地方学校ノ制ヲ一ニス

教学ノ道多岐終ニ天下ノ人材ヲ誤ルモノ歟カラス今一朝

学制ヲ立ル能ハズト雖モ至適ノ方法ヲ定メ各地方ニ令シテ逐次施行セシムヘシ

第二條

天下ノ人才ヲ收攬ス

藩ニ多ク其管内ノ人ヲ用テ他ノ管内ノ人ト自ラ彼我ノ區別ヲ生シ易シ自今偏黨ノ私ナク人才ヲ登用シテ各地方政廳ニ錯互在職セシメ万里同軌ノ地ニ至ラシムヘシ

第三條

要地ニ兵ヲ置ク

各藩ノ兵ヲ収メテ兵部者ニ管セシメ八道設警ノ要地ニ分附スヘシ其資用ノ如キハ各藩管内ノ高ニ照準シテコレヲ大藏者ニ完納セシムヘシ

第四條

一州一知事ノ制ヲ定ム

藩ニ大小アリ一藩ニテ數州ヲ管轄シ或ハ一州ニ數藩ヲ基布ス自ラ治民ノ術多途ニ別ル今一州ニ一知事トナス時ハ民政盡ク一ニ歸シ人心ニ向フ所ヲ知シメ官職世襲ノ弊ヲ革除スヘシ

第五條

華族ノ祿ヲ均フスヘシ

華族給祿ノ多少均カク適宜方法ヲ立ツヘシ然レモ以テ永世ノ制トスルニテラス終ニ文明ノ化日ニ壯シ祿位ヲ去リ世襲ニ安シスルノ念ヲ絶シ天地ニ報スル所以ノモノヲ知ラシムルヲ期待スヘシ

臣區々ノ微衷ヲ布ク退テ省ルニ地方官ノ敢テ論スヘキ處
ニ非ス恐悚罪ヲ致ツノ外他ナシ然レ臣多年非常ノ優
恩ヲ荷シ未タ涓滴ノ報効ヲナサス今夫外ニ絶國要盟
結信ノ事アリ内ニ
皇上銳意圖治ノ勞アリ老億ノ
微軀偷息屈首安佚ヲ其間ニ求メシヤ因テ大忝ニ事
志水忠平丹羽賢等ト議シテ赤誠ヲ表シ犯上言罪
死ニイレス臣激切屏營ノ至ニ堪ルヲナク誠恐誠惶頓首
敬白

辛未四月

名古屋藩知事徳川慶勝

一福井藩の

一此已年以來藩制被^改移^改變^改之^改交^改關^改藩^改人^改心
上^改之^改也^改惟^改不^改之^改身^改於^改又^改却^改而^改 所^改趨^改之^改其^改今
一層^改政^改革^改別^改紙^改通^改施^改入^改任^改度^改也^改一^改已^改之^改之^改也^改其^改也^改
リ^改言^改ハ^改却^改之^改身^改又^改ハ^改身^改深^改ク 所^改趨^改之^改其^改今^改
廟^改議^改ハ^改未^改付^改議^改也^改未^改ク^改未^改ニ^改施^改設^改仕^改度^改何^改也^改所^改趨^改之^改其^改今^改
此^改其^改也^改也^改 奏^改奉^改終^改

辛未四月

福井藩

別紙

一今世^改之^改也^改惟^改不^改之^改身^改於^改又^改却^改而^改 所^改趨^改之^改其^改今^改
大^改同^改化^改趨^改カ^改シ^改ム^改ニ^改付^改テ^改士^改務^改年^改モ^改亦^改文^改武^改之^改事^改職^改ヲ

通之同

能キ人民平均不露自由ノ權ヲ得テ各其正誠ヲ開キ材

能ク長セシムル根政厚キ事

一士族年禄制ニ係ル此事向自由不斗ノ極此處文

武ニ事職ヲ解リシ事トシ一層改正大縣ニ至ル或

制ヲ加ヘ給テ禄券ヲ給シ或之ヲ賣買シ或ハ子弟

ニ分與スル亦農高ノ持テ事産異ナル一無ラシキ事

但今一層改正ノ巨細ニ書成テ以テ可也事

一士族年々其年々同一人民タシハ其政スル所ニ從テ農

工商ノ業ニ就キ或廢刀スルヲ務メテ其年々事

但亦免スレバ此限ニ充テル事

一民人ノ同化ニ極テ至ル學内ニ學校ヲ不運ニ設ケ他ノ階ニ

或ハ省志ス者ノ事社ヲ結ビ物産ヲ蓄積セシムル根

禮武之
外廢刀
ヲ為務
手ヲ

務高キ正租兼夫米多事ノ外諸雜稅ノ極ニ免キ事

但亦學校或ハ物産會社ヲ不運ニ設ケ他ノ階ニ

諸稅在極ノ極ニ進テ可也事

一亦免各隊ノ友縁始テ適宜ラ以テ相定テ其年々事

藩亦同一職事列ノ縁亦更ノ所規則ト也其年々事

但免各隊ノ後任官中ニ割テ以テ給與スル事

的相立サレニ今始テ其年々事

有テ市ノ極ニ事

一俾地門等ニ事更ニ地稅ヲ課シ公府ノ用ニ供テ可也事

一每年物産ノ多寡或テ其年々事格者スル為メ更ニ隊亦

ヲ設ケ凡テ其年々事

但其稅ノ隊亦ノ入其年々事

向之通 以下各同也

福井藩知事家禄仰 相裁

今般藩制云云之通條件、以是爲通、通あり施設は左
右に就て是は支令の者、微石揚るべき家禄
此儀相裁仕在る、今般に於て程安を好む、是等
族、文武 福制に係り、正に在り、存る、微石家禄
是、
相裁、
上何なり、
奉旨、
奏す、
奉旨、
奉旨、

辛酉四月

福井藩知事松平茂昭

新訂

一 若松縣建白

建白時情ニ關係不ク最初福島縣ニ相廻リ其ヨリ角田山形
諸縣ニ相廻候由秘物ニ何レモ知事ノ外知人ナレ

一 地方官ニ於テ勅奏ノ官員ヲ置ク其任ノ重キニ似テ其任ノ輕ク

其責ニ依テ輕之方今ノ御政体ノ如ク諸縣ニ知事兼事ヲ置ハ
木偶ヲ置ニ同シ依テ一縣ヲ分割シテ五方石乃至七八方石迄ノ管轄
トシ大屬以下ノ官員ヲ置キ舊幕代官ノ如ク租税ノミヲ關係セシ
凡百政度ニ至テハ政府及ヒ民藏兩省ヨリ巡回シ之ヲ処置シテ可
ナリ然レ氏土凡民情ニ至テハ唯巡回ノミニ決シテ其情實ヲ得ル
能ハス大ニ民心ヲ失スルコト多シ故ニ知事兼事ヲ置カサルヲ得ス既ニ知
事ヲ置ハ其任ヲ重クシ宜シク委任スヘキ条件ヲ立テ之ヲ任シ万一
不當ノ処置アルニ至テ其責ヲ重クスルハ自然寛猛相濟恩威
並行ノ機宜ニ適スヘシ方今ノ如キ瑣末ノ事件ト雖モ之ヲ政府ニ
伺ヒ其決ヲ取ニ非スレテハ少シモ行フニ能ハス其伺ニ付テハ三十日

乃至五十日ト遷延之事、^機採會ヲ失スルニ至ラス其指揮モ亦坐上ノ空論ニテ實地ト相背馳スル一十二七八ナリ如此御政体ニテハ地方官如何ニ盡カストモ王化ヲ宣布シ民ヲ悦服セシムル期ハ不可有仍テ御委任ノ条件ヲ御決定ニ相成候歟又ハ舊幕代官ノ改度ニ御改革ニ相成候歟二般ノ中何レカ御評決有之度奉存候

一前書二般ノ中知事ヲ廢スル一恐クハ行ハレ難カラシ然レハ各地各縣其土凡人情大同小異ナキニアラス且管轄ノ廣狹モ各異ナリ民情猶水ノ如シ易導シテ亦易激故ニ其民情ニ應シテ法ヲ立ツルニ非テ決シテ行ハ難シ仍テ各地官ニ土凡相應ノ法ヲ立サセ其任スヘキヲ許シ其不可任ヲ許サルハ政府ノ詮議ニ有ルナレバ方今如キ頃未ノ議論ニテハ民心ヲ收攬スル實ニ難シ仍テ政府ニテハ確乎不可動ノ大綱領ニ盡ケテ余ヲ立細目ニ至テハ各縣ニ於テ凡土民情ニ應スル法

則テ以テ処置ヲ被任度奉存候事

右ニ付鄙見ノ次第別紙ヲ以奉言上候以上

辛未 四月

若松縣大参事源 義実
若松縣大参事穂積速夫
若松縣知事藤原隆平

別紙

一國家ノ治乱ハ民心ノ向背ニ在リ民心ノ向背ニ在リ民心ノ向背ハ稅歛ヲ起ル御一新以來名ハ仁恤ニシテ其實ハ聚歛緻密ノ法令陸續布告民庶多ク不聊生最前復古ト被仰候節ハ定テ古ノ王政ニ復スルト刮目翹望致居候所復古ノ名ハイツトナク廢絶方今ニテハ維新ト相唱其維新モ亦維命維新ノ故ニ非スニテ概畧西洋日新ノ

学凡、流新奇ノ政度ノミヲ主法スルニ至ん其大体ニ至テ姑ク措テ
不論第一民政ノ如キハ旧幕赫運ノ悪弊ヲ取り専ラ重欽ヲ本
トシ加之凡土人情ニ合サル西洋ノ税則ヲ模倣シ凡百ノ政度民心
ト相背馳スルノミ豈如此ニテ天下ヲ治ルノ道何ノ日欵相立シ若
聚欽シ主張シ洋則ヲ模倣シテ天下治リ會計相立者ナラニハ
舊幕豈大政ヲ返上スヘケンヤ彼己ニ其不可済ヲ知ル故ヲ以テ
大政ヲ奉還ス然ラハ今日ノ政度其覆轍ヲ踏ス宜ク真ノ王政
ニ復シ旧幕末運ノ遺法ト大ニ相及スル処ノ大活眼ヲ開キ泛末
ノ税則ヲ改メ極メテ其税ヲ薄シ民ヲシテ悦服セシムル所置ヲ為
從來倒縣ニ等キ民情忽チ蕪息シ深ク王澤ニ浴シ豈沸騰騷
擾ノ挙動アラシヤ近来ノ政度益賦欽ヲ重クシ國用益疲弊
ス夫如此ニハ上下共ニ困迫シテ不可済ニ至ル恐クハ遠ニ非ス臣等

苟員ニ牧民ノ官ニ倫リ其民心ヲ熟察スルニ 朝廷既ニ怨謗ノ藪
澤ニ歸ス其本ヲ推究スルニ其令スル所舊幕苛察ノ遺法ニ非
書生ノ淺論ニ出テ今日之ヲ實際ニ行フニ至テハ民心ヲ疑懼恐惑セ
シタルニ過ス噫 朝廷シレテ怨謗ノ藪澤タラシムル亦不宜哉封建ヲ
廢ニ郡縣タラシムルノ名既ニ行ハルト虽凡所謂空名ニテハ其封
建ニ異ナラス何トナレハ縣制ハ民藏繳密ノ規則ニ縛セラレ民心ヲ得ルノ
策ヲ施ス能ハス藩制ハ適宜ノ法ニ任ス仍テ縣ノ民及テ藩ノ民タラ
ニテラ希望ス今縣制ヲシテ寛大ノ制度ヲ立藩民ヲシテ縣民タ
ラシテラ希望セシタルノ策ヲ施サハ敢名ヲ先シテ封建郡縣ヲ論スル
ニ及ハス其实天下一般ノ民心朝廷ヲ奉戴スヘシ民心既ニ歸向ノ
機ヲ觀テ徐々ニ其民心ヲ得ルノ基本ハ全ク税欽ニ依テ大藏
省ヲ廢シテ出納目ヲ政府ニ置キ其金穀ノ權ヲ確守シ租税

司ヲ民部省中ニ置キ曰幣ヲ猛断シ税法ヲ薄クスヘシ民心悅
脱此國用匱乏豈憂ルニ足ニヤ曰今日目下ニ迫ル會計其稅歛
テ薄シテ何ヲ以テ之ヲ支ルヲ得ルヤ曰今天下ニ流通スル貨財ハ
大概楮幣ノニナリ曰幕ニテ施行セシ所ノ金銀ハ誰カ手ニ歸スル
宜ク之ヲ考量スヘシ外國へ輸出セシモ其數不可計ト虽モ癸丑以
來ハ猶更天下ノ豪農高ノ手ニ私有スル貨幣其數許ナルヲ
知ラス是迄ノ如キ苛察ニ等キ法令ニテハ自尤ト上下ノ親薄ク
彼皆後來如何ト恐惑シテ有モ無力如ニシテ 朝廷ノ疲困ヲ傍
觀ス今日薄稅ノ法ヲ立テ之ヲ布告シ從テ曰幕ノ引舟及沿革
以來ノ内外國債ヲ下民ニ知ラシムルハ德ノ流行置郵シテ傳命
ヨリモ速ニシテ天下ノ民或ハ貨財ヲ獻シ或ハ身カヲ尽シ時日ヲ
経シテ之ヲ償フニ至ルハ鏡ニ掛テ見カ如ク是所謂與フルノ取

タルヲ知ル之方今テノ如キ會計ノ立法ニテ其債ヲ償ヒ國用ヲ充實
セシメント欲スルハ本ニ緣テ莫ヲ求ルヨリモ猶難ト云ヘシ仍テ左ノ
條件ヲ御斟酌ノ上御改正ノ一端ニ御備被下度奉懇願候
第一稅歛ノ法則ヲ確定シテ其許スヘキハ断然免許有之度事

此件別紙各目ヲ立申上候

第二今日不急ノ土木其他一切之冗費ヲ減省有之度事

御一新以來治民之道未立政令煩苛ニ涉リ民皆不聊生故ニ動モ
スレハ暴動沸騰ノ機アリ夫カ為ニ諸官員東西ニ奔走シ甚ニ至テハ
加フルニ兵威ヲ以テス其冗費幾許ソヤ小利ヲ見シテ大損
ヲ招ク是皆煩苛之政令ト稅歛ヲ重クストノ弊也今稅則
ヲ改正シテ民ヲ悦服セシムルハ豈如斯冗費アラシヤ其他
諸縣ニ委任ノコナリ細大百事之ヲ政府ニ伺フ其指揮或ハ

實地ノ情實ト粗詰ト不得止知悉及ヒ屬官ノ者屢々府テ
其事情ヲ陳述ス是又冗費ノ大ナル者也其他此些細ノ冗費不
遑收舉故ニ其冗費ノ因テ起ル所ニ着目シ御改正有之度其着
目何如法ヲ簡易ニシテ稅歛ヲ薄クスル而已

開墾之後近未盛ニ行ハル或ハ官金ヲ費シ或ハ民カラ募リ
新奇ヲ喜フノ徒地方興スハ國家隆盛ノ基杯ト前後ノ勸弁
ナク目下ノ利ヲ申唱候儀ヲ御採用ニ相成候ヘ正近來高法
盛ニ行ハル勞ヲ厭テ利ヲ貪ルハ人情ノ常ト元來農藉ノ者
多ク高賈ト変シ固有ノ地カラ尽ス能ハス本田スラ動モスレハ
荒蕪ニ至ルノ勢ニテ新ニ地カラ興シ候テモ從テ荒蕪ニ歸シ所入
不償所出ノ道理ニ付開墾ノ議等當分指置專地カラ為尽候
ハ其功新墾ニ百倍ス何ヲカ地カラ尽スト云譬ハ御料ノ御高

凡八百萬石ト見ル此及別凡八百及也内四百万及ハ富民ノ耕耘ス
所ト見ル残り四百万及ハ貧民其地ヲ富民ニ借リ小作スル所ト見
ル富民ハ十分ノ肥シヲ用ヒ且世話モ行届キ一及ニ付六俵或ハ七
八俵ノ米ヲ獲ル貧民ハ今日目下ノ究迫ニ追ハル十分ノ肥シモ
用ヒス且世話モ行届ス故ニ一及ニ付四俵或ハ五俵ヲ得ルニ過
キス一及ニ付二俵ノ軒輕アリ四百万及ニテ八百万俵ノ取落ト
見ル富民ノ益富テ貧民ノ益窮スル所以職是之嗚呼八百
万俵ヲ獲ル新墾豈容易ナシヤ仍テ地方官ニテ實直ニテ熟
練之老農ヲ撰用シ勸農且肥シ物等ノ一ヲ幹セシムル時ハ自然
地カラ盡シテ究民ヲ減スルニ至ル豈十年ノ後ヲ期スル新墾ヲ
待ニヤ其利害得失得テ可知也

一舊幕ノ条約ニ依テ不得止情實有之哉ニ承リ候ヘ正缺道

又ハ傳信械ホ成功ノ上ハ便宜ニ可有之ヲ併方今國用スラ置之ノ時
勢不急ノ事件御取掛ニ相成候テハ何レ稅歛ヲ強ク不致候テハ不相
成大ニ民心不服ヲ生シ候儀ニテ譬ハ食料ヲ麩ニテ補葉ヲ用ユルカ
如ク藥効未見ニ其身先斃ノ道理ニ付右等内外債金ク返濟相
成國力充實ノ日迄ハ延引ノ御談判有之度一ニ^海座候方今國政
沿革ノ際國力疲弊之儀ハ彼皆詳ニ知之我其情實ヲ談判シテ彼
然諾不致候得者即交際ノ信義ヲ失シ候^レテ所謂曲在彼ト申者ニ
候ハ當分断然御廢止有之度奉存候事

第三政府諸官省及府縣ノ官員事務ノ適不適ヲ精選有之度事
人材能各長短アリ或軍務ニ長ニテ民政ニ短ナルアリ或ハ外国ノ事務ニ
達ニテ内國ノ政務ニ疏ナルアリ故ニ能ク其所長ヲ適用有之度諸省有^各
司ノ官長何レモ至長ト雖モ就中諸縣知參ノ如キハ政府ト遠隔ニ

一縣ハ小政府ニ親シク愚民ニ接シ租稅會計土木地理刑法聽訟濟貧養
老等百事管轄スル官ナレハ清廉仁愛ニテ且能ク下情ニ通スル者ニア^ラズ
ニハ不可ナリ故ニ殊更其人ヲ撰ミ百事ヲ委任シ萬一不当ノ所置アル片其
責ヲ嚴ニスヘシ方今ノ如キ其撰ヲ精クモ^ス故ニ疑心ヲ生シテ委任スル^ル能
ハス事務百端掣肘ノ憂アリテ其力ヲ尽スヲ得ス是其事ノ不奉所
以也以テ其選ヲ精クシ諸件御委任有之度然レ其制度ヲ確定セシ
テ猥ニ委任スル片ハ反テ大害ヲ醸スニ至ル仍テ縣制ノ見込^ニ別層奉申
上候

第四民部大藏兩省中各司ノ官費御減省有之度事
前書申上候通出納^印ヲ政府ニ置キ金穀ノ權ヲ確守シ租稅司ヲ
民部省ニ被置候ハ大藏省ハ廢止ニ相成候^レモ可然尤候ハ各司中合
併考致候^テ可然ハ監督ト庶務租稅ト地理ノ如キ是^レ且諸縣御委任

儀ヲ御決定ニ相成候得者一々年金穀遺拂ノ正不正ヲ監別ニ賞罰ヲ正
スル迄ノ一ニ各司中大佐以下大半減少ニ相成候ニモ及テ簡易ニテ事務指
支候儀ハ無之是又費冗ヲ省ク最大ナル者ト奉存候事

第五驕奢ヲ禁シ儉朴ヲ主張有之度事

創業守成共驕奢ヲ禁シ節儉ヲ守ルニ非^ズ其^ハ其国カヲ充實シテ大業
ヲ維持スル能ハサルハ無論ニ有之然ルニ維新以來諸官省大ニ驕奢凡
靡^ニ其弊諸藩出府ノ官省ニ波及^シ其衣服刀劍ノ美麗ハ勿論殊
ニ都下割烹店及ヒ藝妓等ノ盛ナル古未未曾有^ニ其形勢一時
盛ニ相見^ハ候^ハ其^ハ其^ハ衰弊之兆歎息此事奉存候官員ハ俸
祿之外他ニ所入無之驕侈^{ヨリ}困窮ヲ生^シ困窮ヨリ邪曲ヲ生^シ候
自然^ノ勢^ニテ詰^リ賄賂苞苴ヲ貪^リ或民物ヲ虐取スルホノ惡弊百
出真ニ不可済ノ場合ニ立至^リ可申此惡弊ヲ挽回スルニ要路ノ長官

ヨリ過儉過朴ノ風儀ヲ御主張有之候ハ自然ト儉朴ノ風ニ歸^シ可申所
謂君子ノ徳ハ凡御思惟有之度奉存候

第六言路洞開ノ名實相愜候様御処置有之度候事

人材擢用言路洞開ハ惟新以來ノ一大美事ニ有之候所近來西洋ノ學
凡追日盛ニ相成其中真ニ文明開化ノ學業ハ可推重^ト候得共元來
皇國ハ義重^トスル民情西洋各國ハ利ヲ主トスル風俗ニテ自然利ヲ主
トスル風習ニ相靡^キ国家ノ為メ遠大ノ策ヲ立^ル者多ク久^ク迂遠^トシテ御
採用ナリ目下ノ小利ヲ建白スル者ハ反テ非常ノ御登用ニ相成自然正
義ノ士ハ退^キ巧利ノ徒ハ進^ム形勢如此^ニハ神洲ノ義氣モ終^ニ泯
滅^シ上下又征利ニ立到可申近來待詔院集議院モ閉院ニ相成且横
山氏ノ如キ死ヲ以テ忠諫致^シ候件々ノ中時弊の切ノ癩モ有之候得共
御採用無^シテハ狂死同然ノ^ニ立當^リ全^ク言路洞開ハ空名ニ屬^ス實

以歎息ノ一ニ奉存候

右件々淺識陋見且僭越過度ノ罪不知所遁候ハ一方今民心ノ向背ニ付テハ不堪苦心候付吐露肝膽昧死奉建言候誠恐誠惶頓首

辛未

四月

若松縣大參事源義実

若松縣大參事穗積速夫

若松縣知事藤原隆平

辨官御中

御維新ニ付テハ國家ノ重キ民心ノ向背ヨリ大ナルハ無之其向背ノ預ル処稅斂ヨリ起ルニ候得ハ專務租稅徭役ヲ輕クシテ民心ヲ為欣最後

ノ御益益勸肝要奉存候右ニ付荒増見込ケ条書ヲ以テ相顯申候

第一田租肥地ハ免ツ瘠地ニツツ高付荒地再墾ハ三年無稅四年目ヨリ

半稅八年目ヨリ本稅新開墾ハ五年無稅六年目ヨリ半稅十年目ヨリ

本稅

此免四ツト立候ハ一方今四年入御確定ハ免ツノ儀ニ而舊幕中三年

五斗ト定メ有之候ニツ五分ノ時ヨリ出候一ニ付右ハ照應致候一ニツ

五斗立候ハ御不浸ノ免ニツ五分ノ御確定瘠土ハ照準致候一ニ有之

兩様ク免ニテモ民難納所ハ其土ニ隨テ別段免合御確定相定候方可然

歎大抵ハ都而御規則ヨリ生シ不申ハ國家不相治一ニ有之再墾ノ稅收

一方一般ニ本及ノ如ク相成候ハ民心一和致シ其力無之者ハ不進候凡有餘

有之者悦テ進地邦有餘ノ民ハ人少ノ地ニ移リ開墾ノ道相開可申奉
存候

第二畠方前同新ニテ其地ニテ貫代ヲ以テ永方ニ改金納

此貫代関東ハ一貫文ニ付二石五斗代其餘國々交リ有之タトハ山名代ノ中ニ
伊達信夫ハ七石代若松管轄ハ二石四斗代三石二斗代ニ有之如キ舊貫
ニ隨ヒ永方納相成候ハ其納ル所増減ナクシテ民ハ甘シ可申奉存候

第三高内退轉ノ民跡村持ノ名目ニテ租稅民ノ辨納ニテ或ハ病災
其外手不足ニテ作ルカ乏シク無余儀荒地ニテ其者地租辨納致居候
等實ニ民ノ病ニ相成有之モ不少是ハ不殘租稅免許

此康舊幕中ハ相願候テモ容易ニ聞届不相成隨テ諸國ニ有之分不少前
書ノ通りニ御仕法相立候ハ一旦免除御損ノ様ニ候ハ共不遠再懇ニ可
相成ト奉存候

第四前条ノ如キ地生堀敷郷藏敷高札場敷地川欠地等ハ都而諸役免許
此康旧幕中免許ニ無之候ハ正實ニ村々亦納テ川欠等ハ別テノ義累
年倚頼致居候膏腴ノ土ヲ失候殘諸役ヲ負候テ如何ニモ歎息ノ至
ト奉存候

第五山林川澤ノ類ハ潤助有之物故正稅ノ様諸稅為相納可然候得
共田畑ヨリ生候桑麻蠟漆茶其外ヨリ二重稅ヲ民ヨリ為納候ハ免許
此康桑ハ養蚕ノ上繭ニテリ又糸ニテリ候上稅相納候ハ人力ニテ製造
ノ稅ハ先ニテ相立有之然シ畑稅相納有之上又桑ヨリモ稅ヲ取ル如キ二
重稅ニ相當リ其他モ同様ニ付土地ヨリ相生候モノ一稅ハ其上人力ニテ製候
モノ一稅ト兩稅ノ外不懸様仕度奉存候

第六傳馬宿入用米免許
此傳馬傳手當ノタメ取立有之モノニ候所方今驛通御積正ニ相成候

上八御差留可然奉存候

第七六尺給米同断

此廉歩人為指出候代り取立有之モノ候へ別段ノ御仕法御確定此廉ハ御除キ可然奉存候

第八御藏米入用永同断

此廉御米納付掛リノ者手当諸入用ノ為ノ取立有之候得共舊幕中ノ遺法ニ候得ハ前同様御廢止是ハ舊幕中舊旗下領分知行等ヨリ地頭へ可差出夫ノ代リ為納候ヲ替地或ハ没収地ニ成節六尺給米ヨリ過當ノ分ハ其終取立候仕末ニテ聚斂ノ利ニ相當リ候品ニ付六尺給米同様免許

第十延米ト唱関州其外有之分ハ三斗五升俵或ハ

四斗俵等欠減痛ノ為ニ取立候起ニ候處其終正税同様相成居候分免許

第十一口米口永ノ義ハ民政所ノ入費ニテ民ニ相納サセ候者

有之候處何トナク正税同様ニ相成候モノニテ往古無之者ニ有之候間免許

第十二東京廻漕ニ相成候貢米ニ合米ト唱三斗五升

俵合ハ一斗四斗俵ハ一升其外ニ海上欠減償ノ夕ノ一俵ニ

付何程ツト定欠米ト申者有之元來合米ト唱候者ハ御藏納ノ節俵入レ切石補ニ候處舊幕ノ末赤合米ノ餘ニモ猶預無之候テハ不相成ト成又欠米ハ其上ニ為出候姿ニテ此廉ハ實ニ民ノ煩不少事ニ候間免許

第十三餅米并大豆菜種荏胡麻其外右類ノ取立
物舊幕中有之候ハ其臺所入用ノ為役々為納代リ
米相渡候ヲ末々至リ又代リ米ヲ代金ニテ相渡候事
ニ相成是ハ全ク課役ニ付免許可然奉存候

第十四都テ堤防ハ民力ニ難叶分ハ假令舊貫有之候
夫ニ不拘官費ノ御規則相成其國ノ風土ニ應シ民役ハ
確定ニ相成候様奉存候

右之條々御廢止ニ相成候テハ一時御不益ノ相ニ相見
候得共近年民力相増候ニ隨開墾地多ク人民モ繁
殖十ヶ年モ過候ハ御收納却テ相増シ御國力相進ミ
可申奉存候

一縣制ヲ立ル煩苛ノ規則ヲ廢シ簡易ノ法ヲ立ツルヲ
要ス豫 布告アリシ明細帳雛形山林取調雛形賦
難表戸籍表ノ如キ繁雜ニ涉リ實地ニ之ヲ行フ容
易ニ非スシテ然モ其有益ヲ見ス是等ノ一ヲ申立ツ
ルハ即舊幕小吏及洋學者流ノ所業ニテ舊代官
ノ時五萬石或七八萬石迄ノ管轄ニテ數十年來追
追繳案成來タル時ニ之レヲ行フモ難トセス沿革以來ノ
縣ハ舊旗下上地諸藩ノ上地或ハ飛地ヲ混合シテ一纏
ニ致スノ時節逆モ行届一ニ無之其建言ノ小吏モ不可
行ヲ知ルト雖モ斯ル細密ノ法ヲ立テ長官ノ耳目ヲ
驚シ己カ等級ヲ進ム階梯トナスハ其奸黠真ニ可憎
其管見又可笑也右等煩苛ノ法ヲ除キ易知易

行ノ法ヲ立ツヘシ

一第一第二常備金ノ如キ諸縣共其定額ヲ守ル能ハス此規則亦可廢

一堤防ハ民政ニ付最緊要ノ要務且機會不可失事

件ノ殊ニ切ナル者也右ハ地方官ニ委任スヘシ
但藩縣管地犬牙相接ノ場所ハ動モスレハ爭論ヲ生ス故ニ土木司ヨリ檢査シ官員平常出張セシメ之ヲ處置スルヲ要ス

一一年ノ正租雜稅永納等ヲ現石ニ直シ歲入ノ一割二分ヲ以テ左ノ條ヲ委任スルヲ要ス

○縣廳諸費

用度諸品御用收賃錢牢獄徒刑入費監察捕

亡^探探索入用等

○官祿

官員并等外其他探索方勸農方堤守^{山守}等ノ諸給祿

○堤防橋道諸費

但堤防橋道ハ官民兩費ニ可相成者付土風民情ニ應スル良策ヲ立諸縣ヨリ申立ルヲ要ス

○營繕

水火災害ニ付賑窮其他窮民ノ賑恤ヲ始養老賞典等

○旅費日當

右ノ外總テ金穀ニ関涉スル事件此定額ノ中ヲ以テ

資用トシニケ年ニ閏一ヶ月ノ資用ヲ餘スヲ要ス

但シ非常別格ノ儀ハ此限ニアラス其時々伺ヲ立指圖ヲ可受事

右八年々十月ヨリ翌年九月迄ノ勘定詳密ニ取調之ヲ民部省ニ指出シ正不正ノ検査ヲ受ルヲ要ス

一歳入三十分ノ一ヲ以テ救荒ノ不動穀ニ備シテ要ス

夫レ如此法ヲ立ルキハ簡明的切ニシテ上ノ人其歳入ノ大綱ヲ易知下ノ人其細目ヲ易行本^省及縣官^一ヲ省ク豈鮮少ナランヤ政府ニ於テハ譬ハ十萬石ノ歳入アル所縣ニテ八萬五千石ハ確定ノ上納アルヲ知ル真ニ目瞭然ナリ

○租稅調向御釐正ニ相成度件々

一租稅帳

是ハ御收納第一ノ品ニ付御案文之通ニテ可然候へ共附屬之書類ハ御省有之度

一明細帳

是ハ御省ニ相成候^別ニ雜稅其外縣々管轄ノ地方大帳ニ換一度指出置入狂ノ分而已年々縣紙致候得ハ御取締相立可申事ニ有之

一出納目錄

是ハ廉々出納而已ヲ記シ細目ハ御省有之度

一御林帳

是ハ箇所ト本品而已記シ置他ハ縣ニ御委任可然木寸間等ノ調ハ贅物ニ同シク實地可行事ニ無之

一荒地帳之類

是モ前同新實地ノ檢査ヨリ帳記之調急速ニ可被
行事ニ無之一旦行届候モ忽有名無實ニ流レ煩冗之
損アリテ上下モ無益ノ品ニ付縣ニ御委任ニ相成候様
致度

右之外可指出帳記ハ御省有之度

○縣廳ニ於テ處置可聞件々

聽訟之部

一社法寺法ニ拘リ候平民ノ引合

一地境論

租稅之部

一總テ租稅極ノ方且新規ノ取立方

一大場ノ開墾新田開拓水利ヲ興ス等

一總テ非常之件



